

■プレゼンテーション 3■

高校生活の彩りに哲学対話を！

キーワード：高校生の哲学対話

開成高等学校 小林大輝

開成で昨年9月から行ってきた「ゆるり哲学対話」の活動報告を行います。

■第1回(2015年9月)

初回の対話は、学年の現代文担当・森先生の主催で、UTCPから梶谷先生と院生の方に来ていただき行いました。はじめに高校生の哲学対話についてお話があり、そのあと実際に対話をしました。問いは「人はなぜ生きているのか」。最後に、今後は運営を生徒に引き継いで続けていくということになり、コアメンバーを決めました。

■第2回(2015年11月)、第3回(2016年1月)

第2回、第3回は、東大から大学院生の方をお呼びしてファシリをお願いする形で行いました。森先生のご知り合いの高校の先生も来てくださいました。問いは第2回：「学校で授業をする意味は？」、第3回：「女性は大切にされるべきか？」でした。

■第4回(2016年6月)

実験的企画として、アニメーションを見て対話を行いました。抽象度の高い作品だったため、まず感想の共有を行った後、問い出しを行いました。それでも象徴や製作者の意図の解釈に終始してなかなか離陸した問いは出ず、広がりがあったが深まりはなかったというのが素直な感想です。

■「哲学対話×運動会」Vol.1(2016年6月)

開成では毎年5月に運動会が行われます。運動会準備委員会が中心となり当日まで準備を整え、ジャッジは審判団が下し、下級生の競技指導は高3が行うという、ほぼ全ての運営を生徒が担う行事です。ルールや規定等も生徒の会議で決定されます。しかしそうした仕事や話し合いをこなすうえで、どうしても前提となる意識の共有や抽象度の高い問いについて向き合う機会はおろそかになってしまいます。そこでそのいわば「土台」となるような思考の場として、哲学対話を持ち込んだらよいのではないかというアイデアから生まれたのがこの企画です。

■「哲学対話×ヒロシマ」(2016年5月)

修学旅行先の広島で2日かけて原子爆弾関連の遺構や施設を訪れたり、大学の先生に講演をしていただいたりしたのちに、夕方のホテルで行った対話です。テーマは「この2日間で見たものや、考えたこと」という広いものでしたが、最終的に「平和教育をどのようにしてゆけばよいのか」という問いになりました。旅行中にも関わらず10人以上参加してくれて、かつ最も質の高い対話でした。

特に後半2つの企画は、学校ならではの対話の活用方法だと思います。どちらも「学校行事をより良いものにする」という意味で共通した目的がありますし、実際一定の効果がありました。当日のプレゼンでは、開催意図や効果についてより詳しく知っていただいた上で、意見交換ができたと思います。

(こばやし・ひろき)「ゆるり哲学対話」と題して校内で対話企画を主催しています。「自分の学校や、高校生にしかできない、オリジナルの哲学対話」のカタチを探して、色々実験/企画中です。対話のしっとりした空気感が大好きです。他校との交流もやってみたいと思っています…。